

地域の危険性の把握

地震（震度）、津波、台風、火災、高潮、浸水、液状化など、災害には様々な種類があり、その危険性は地域によって異なります。地域の災害の歴史や地名の由来を調べてみるなど、お住まいの地域が安全なところか確認し、個々の災害毎に必要な対策を立てましょう。

備蓄品、非常用持出袋の準備

各家庭で可能な限り1週間分程度、最低でも3日分程度の食料及び飲料水（3L/人・日）を備蓄しましょう。また、避難所での生活をイメージし、メガネ、靴、懐中電灯、携帯トイレ、持病の薬、お薬手帳、寝袋等、必要なものはいつでも持ち出せるように準備しておきましょう。

自宅の耐震化

県内の市町村において、木造住宅の無料耐震診断を実施しています（昭和56年5月31日以前に着工された住宅が対象）。自宅を安全な空間にするのが防災の基本ですので、まだ耐震診断を受けていない場合は、まずは市町村耐震担当窓口にお尋ね下さい。

※ 昭和56年（1981年）6月1日の建築基準法改正により、耐震設計基準が見直され、これ以降の耐震設計基準による建物は、阪神・淡路大震災においても被害が少なかったとされています。

感震ブレーカーの設置

地震の際、電化製品からの出火や、停電が復旧した際の火災を防止するため、感震ブレーカーを設置しましょう。感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し自動的にブレーカーを遮断する器具です。簡易タイプのもので、数千円程度で販売されています。

KEYWORD

『自分の命は自分で守る』

避難場所・避難経路の確認

お住まいの地域のハザードマップを入手し、自宅周辺の避難場所などを確認しておきましょう。避難する場所は、家族が別々の場所で被災した時の集合場所にもなります。併せて、どのような手段・経路で避難するかも重要です。実際に家族皆で歩いてみましょう。

連絡手段の確保

南海トラフ地震発生時には、1週間もの間、電話が9割使えなくなることが想定されています。災害時に家族の安全が確認できないと、本当に困ります。いざという時に家族と連絡が取れるよう、NTTや携帯電話会社各社が提供する災害用伝言ダイヤル171及び災害用伝言板のサービスを体験してみましょう。

家具の固定

近年発生した地震では、建物自体は大丈夫でも、多くの家で家具が転倒・落下し、家具の下敷きになったり、割れたガラスなどで怪我をした被害が多数出ました。

家具の転倒・落下によって怪我だけでなく、倒れた家具でドアなどが塞がれ避難できなくなる恐れがあります。特に寝室は最も重要ですので、背の高い家具などはなるべく置かないようにしましょう。その他、家具の配置を工夫したり、固定することにより、室内をできるだけ安全な空間にしましょう。

初動対応の確認

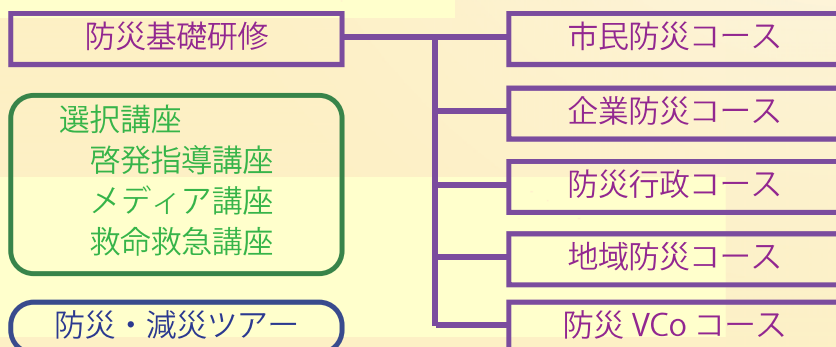
地震が起こったら、まずは身の安全が最優先です。机の下などで頭と体を守ってください。また、家族の安全は声を掛けて確認してください。揺れが収まったら、火の始末をする（火災防止、ガスの元栓と電気のブレーカーを切る）、ドアを開ける（脱出口の確保）、靴を履く（足裏の怪我防止）などの行動を取りましょう。家の外へ避難すべきかどうかは状況によって異なりますので、テレビやラジオで正しい情報を入手し、適切に判断することが求められます。

防災・減災カレッジ（人材育成研修）を実施しています。

この地域では、東海地震、東南海地震、南海地震等の南海トラフの巨大地震発生が危惧されることから、来たるべき超広域大規模災害への備えを確かなものにしていくため、平成24年度に行政、事業者団体、地域団体、ボランティア団体等で構成するあいち協働社会推進協議会において、名古屋大学、防災のための愛知県ボランティア連絡会及びなごや災害ボランティア連絡会と連携し、「防災・減災カレッジ」を開設し、防災人材の育成に取り組んでいます（28年度 平成28年6月16日（木）～平成29年1月28日（土））。これまでに延べ8,000名を超える方々に受講していただきました。

メインの「コース受講」は、『防災基礎研修』1日+『各種コース』2日の合計3日間の講座です。その他、『啓発指導講座』『メディア講座』『救命救急講座』といった「選択講座」に加え、歴史地震まちあるきを行う「防災・減災ツアー」も開催しています。県内にお住まいの方でしたらどなたでも受講でき、防災知識や意識の向上に加え、防災士の資格取得試験の受験資格を得ることもできます。

平成29年度の開催は調整中ですが、募集の際には例年4月下旬頃に愛知県防災局のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/>）に掲載しますので、ぜひご覧ください。



協賛金の募集

防災・減災カレッジは、受講者からの受講料及び個人・企業からの協賛金により運営しており、広く県民・企業の皆様から研究実施のための協賛金を募集しています。金額 1口1万円から（1万円未満もお受けします。）

協賛金のご案内（あいち防災協働社会推進協議会）
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/0000003405.html>